



# 府中地区保護司会だより

第34号

発行責任者 府中地区保護司会  
会長 保坂昌代



奈良少年刑務所前にて

## 地域で役立つ保護司として



府中地区保護司会

副会長 谷 合 隆 一

世の中には、保護司という言葉を一度も耳にしないまま、一生を過ごしてしまう人もきっといることでしょう。しかし、その言葉を知らないからといって決して損をしていたり不幸な訳ではなく、むしろ幸せな人生を送った人たちのだろうと思います。

メディアや専門的に勉強して知ったという人以外で、保護司という言葉を知っている人がいるとすれば、家族・親戚・友達や学校の先生であれば教え子など、自分に近い存在の中に、罪を犯してしまった人がいるということ、少なからず心を痛めた人たちのだろうと思いました。警察に逮捕されたり、また保護観察になったりすると周りの人たちも傷つき、信頼していた人が罪を犯したということを知った瞬間に、きっと他人には言い知れない重い衝撃を受けるのだろうと思います。

保護司という保護観察を思い浮かべる方が多いと思いますが、近年は犯罪予防を推進する活動も多くなってきました。それは保護司が、罪を犯してしまった人たちだけに限る存在ではなくなってきたということです。

保護司は全国で活動していますが、自治体または広域に組織された地区保護司会を中心に活動しております。個人の案件に関しては、今でも保護司一人ひとりが対象者の人権を守りつつ、その人の更生を第一に考えた活動を続けておりますが、府中地区ではここ数年、その経験を活かして「地域での犯罪予防活動に何が出来るのか」を模索しております。冒頭にお話しした通り、今まで保護司の社会的認知度が低かったのは仕方ないことですが、これからは地域で多くの方に知っていただき、地域資源として大いに利用していただけるよう、本来の役割の他にPRと研鑽にも力を注いでいきたいと考えております。



人間尊重の精神、生命に対する畏敬の念に基づく人間理解を基盤とした温かい人間愛の精神をもって人々に接しよう。

“志(こころざし)あるところに道は開け 愛あるところに人が集まる”



# 保護司会への期待

府中第一中学校校長 堀 米 孝 尚



府中地区保護司会の皆様には「学校との連携委員会」をはじめ、学校と保護司との行動連携を通じて、青少年の非行防止・更生保護を目的とした活動をしていただいております。感謝申し上げます。

近年、中学生の非行等問題行動は、携帯電話・スマートフォン等での無料通話アプリ（ライン等）の使用による事案が、顕著になってきています。問題行動が広域化・スピード化しており、各学校においてはその対応に苦慮しているところです。また、生徒の問題行動の把握には、発達障害に対しての理解が重要であると思われまます。保護司会においては、本年度の「生活指導主任会と保護司との懇談会」のテーマを「発達障害と指導法」としていただき、保護司会、生活指導主任会からそれぞれ事例を出し、協議を行うことが出来ました。さらに関東医療少年院医務課長の榎屋二郎先生に講演と指導をしていた

だいたことで、少年犯罪・少年非行と発達障害の関係についての理解を深めました。これは、学校にとって喫緊の課題となっており、大変参考になりました。

「発達障害」とともに「愛着障害」という話が最近よく聞かれます。「愛着障害」とは、乳幼児期に長期にわたって虐待やネグレクトを受けたことにより、保護者との安定した愛着が断たれたことで引き起こされる障害の総称と言われています。この障害の特性は、衝動性や過敏行動性があることや反動的・破壊的な行動がみられ、表現能力や自尊心・相手を敬う気持ち・責任感が欠如していることなどです。発達障害の特性と似ている症状があることから、その違いをしっかりと見極め対応する必要があります。今後も保護司会との行動連携を深めながら、この件についても研修をしていければと思います。

# 多摩連保護司研修会報告

府中地区保護司会副会長 高野 佳子

三寒四温を繰返し春の訪れを感じる二月二十六日、多摩地区保護司会連絡協議会主催の保護司研修会が立川第二法務総合庁舎大会議室にて開催されました。「薬物使用の現状と立ち直り支援」というテーマで、講師には東京ダルク八王子ハウス施設長の加藤隆氏、都立多摩総合精神保健福祉センター広報援助課の谷合知子氏をお招きし、ご講演を頂きました。

加藤氏はご自分の薬物使用体験を赤裸々に話されました。初めて使った覚せい剤の気持ちの良さが記憶に残り忘れられず、長い間、悪循環のサイクルから抜けられない状態が続きました。最後の砦となるダルクの門をたたき、覚せい剤を止め続けて十七年が経過し、今は同じ苦しみを味わう人の支援にあたっています。ダルクでの回復とは、仕事をしてお金を稼ぐことではなく、社会的信用を取り戻し適切な人間関係を維持できることです。保護司には、苦しい部分を話せる環境作り、時には厳しく、時には本人の側に寄り添って気持ちをお話してほしいと話されました。

谷合氏からは、精神保健福祉セン

ターにおける薬物相談の取り組みについてのお話がありました。依存症は、脳の故障に基づく薬物使用のコントロールができない病気で、一人きりで治すことは不可能です。依存症を正しく理解し、長期的な視点で捉え、「身体」「脳」「心」「人間関係」の回復に繋がっていきます。薬物特定相談事業において本人（再発予防プログラム）・家族（家族教室）の回復に向けた支援を行っております。

本日の研修テーマの背景には、「薬物使用等の罪を犯した者に対する刑の一部執行猶予に関する法律」が公布され、三年以内に施行する動きとなっていることが挙げられ、薬物事犯対象者の増加が予想されます。私たち保護司は、依存症に対するメカニズム等薬物の理解を深め、適切な対応ができるよう研鑽を積み重ねなければならないと思います。



\*DARC(ダルク) Drug(薬物) Addiction(依存) Rehabilitation(リハビリ) Center(施設) 全国で約70の施設が運営され、利用者は約600名 ダルク職員は回復者スタッフである \*多摩総合精神保健福祉センターの電話相談 ☎042-371-5560



奈良随想

般若寺の楼門

広報部 大沢 美保子

近鉄奈良線の車窓から眺める景色が、さっと左右に開け、緑の草原の向こうには、大極殿、線路を隔てて反対側には朱雀門（すざくもん、朱雀は南を表す）が望める平城宮跡。東西六キ、南北五キにも及ぶこの広大な空間を電車で横切りながら、千三百年ほど前のいにしえの都へ思いをはせるといっても面白い。

奈良県には、ここを中心に約千八百もの寺院があり、お寺の名前が町名にもなっている。奈良の寺院の造りは大体決まっています、正面が南なので、まず南門がある。それから中門、そして金堂や講堂、五重塔などの伽藍配置になっている。とりわけ東大寺の南大門は有名で、迫力満点の仁王像には圧倒される。

お寺巡りをする中で、一番心引かれたのは、般若寺の楼門（国宝）だった。般若寺は、平城京の丑寅（東北）の方角、つまり鬼門を守るために建てられており、南北朝の争いの時には、護良親王（後醍醐天皇の皇子）が身を隠したともいわれている。楼

門の屋根は、流麗なカーブを描き、門柱の間をのぞくと遠方にある十三重石塔がちょうど真ん中にきれいに入る。だが、辺りに咲き乱れるコスモスの花に、一抹のわびしさを覚えたのは、こうした歴史のせいだけではなかった。

数年前、ある青年から何度か私に届いた手紙の裏には般若寺町の住所が書かれていた。そこは、この楼門から歩いてすぐの所にあり、一度くぐれば、しばらく出ることのできない門の中：奈良少年刑務所：だった。

宿泊研修

研修部 原田 勝彦

本年度の宿泊研修は、奈良少年刑務所視察と世界遺産を訪ね、十月二日、三日の一泊二日の行程で研修をしてきました。初日の奈良少年刑務所は、明治四年に奈良監獄として発足し、大正十一年には奈良刑務所と改称し、昭和二十一年に奈良少年刑務所と改称された時から、少年の教育において豊かな心を重視した多様な教育がありました。そこに開いた新しい主な処遇には、工場を実習場と称する施設等に加え、十五種目にわたる職業訓練、高等学校通信制課程の受講、保護者会、釈放前指導、寮生による施設外の奉仕活動の実施等があり、形を変えつつも六十年以上経過した現在まで脈々と引き継がれているそうです。改善指導では、特別改善指導の薬物依存離脱、性犯罪再犯防止、被害者の視点、交通安全、就労支援、以上法令で定められた五つに加え社会性涵養教育、暴力回避教育、希望開拓講座といった一般改善指導を実施し、教科指導では義務教育の内容に準じた指導をしています。特別強化指導では通信制課程に入学させ、高校教育指導もあ



画：杉浦 渉



東大寺 大仏殿前にて

り、社会通信教育では、簿記、宅地建物取引主任者等の資格取得の場を与え、その能力に応じた知識及び教養を身に着ける。また保護者会では、受刑者とその家族との集団面会を実施しているそうです。

この施設で感じた事は、まず百年経っているのに、とてもきれいで明るい印象を受け、少年たちの素晴らしい更生と未来が、目に浮かんできました。

翌日は薬師寺、法隆寺、東大寺と世界遺産に触れることが出来、懐かしくまた新しい記憶となり、素晴らしい研修でした。





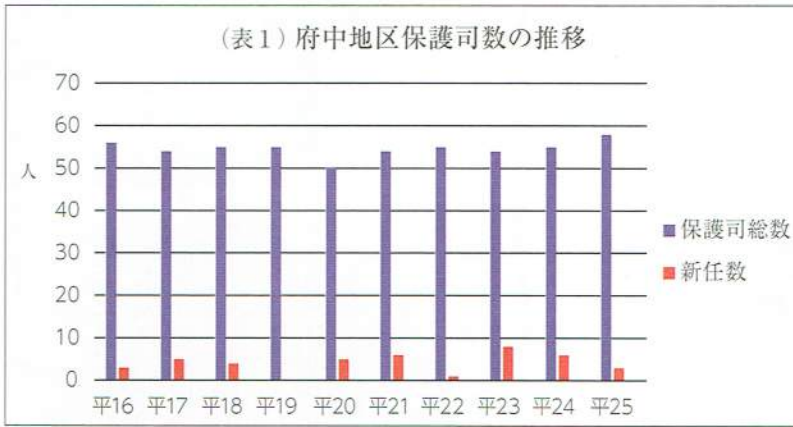
大沢 美保子

十一月十四日(木)、国分寺シホールにて、平成25年度の連絡協議会が開かれました。(第7ブロックは、北多摩東、北多摩西、北多摩北、調布泊江、府中の五つの地区で構成され、今回の当番区は北多摩東でした)

本年度における全ブロック共通のテーマは、「保護司の安定的確保について」で、さらに四つの協議事項が設定されました。各地区からの意見発表を聞いて、質疑応答や意見交換がなされ、来賓による感想が述べられるなど三時間が経ちました。

府中地区では、保護司候補者検討協議会がよく機能し、21年度以降の新任保護司は、全員ここでの推薦候補者であること、また、市役所の一室を対象者との面談に使えることなどが報告されました。(表1を参照)

\*多摩連ホームページ  
<http://www.bz-jpn.com/tamaren/>



(注)

- ①保護司総数は、総会時の人数を基本とする。
  - ②新任数は、保護司総数に含まれる。
  - ③保護司定数は、62人。
- 府中地区保護司の充足率 95.2%  
(平成25年10月1日現在)

感謝のプレゼントが届いたでしょうか  
12・11関東医療少年院のクリスマス会を参観して

杉浦 渉

案内された体育館のステージには、すでにツリーやイルミネーションやらが飾り付けられその雰囲気を楽しませておりました。やがて、先生に引率された生徒たちが号令とともに入場し、整然と着席しました。こうして会は始まりましたが、張り詰めた空気が来賓席の私たちにまで伝わってくるようでした。

最初の出し物は、女子生徒による「くまモンダンス」。ほっぺに真っ赤なトレードマークをつけた彼女たちが、舞台いっぱいには若さはじける踊りを繰り広げます。冷えた体育館が少しあったかくなったようでした。次は2階寮の男子生徒によるクリスマスソングのメドレー。手に手に鈴を持って、ポップ調からオーソドックスな「きよしこの夜」まで歌い上げました。そして「意図的な」アンコール、ダンボール太鼓をたたきながら先生のエレキギターも加わって盛り上がりました。続いて3階寮の男子による「杜子春」の劇、大金を手にした主人公の遊興の場面はすべ



て軽快なダンスで構成されていきました。金を使い果たすと同時に友達も去り、一人途方にくれる杜子春の独白、「ハラ減ったな、キョウカツでもやろうか。だめだめ、それじゃあ少年院に逆戻りだ」に、会場は爆笑の渦。笑い崩れながらも、こうした台詞は生徒と先生の間で信頼の絆と心の余裕がなければ決して生まれな

いだろうなと感じました。最後にKISバンドによる演奏とダンス、その本格的なパフォーマンスにどのプロかなと思いきや、KISとは関東医療少年院の頭文字で、バンド員はすべて先生方でした。締めくくりに、フロアの生徒と先生方が入り混じったダンスで、いやがうえにも会場は一体感に包まれたのでした。すべてが終わってみれば、初めに感じていた緊張感はすっかり解きほぐされ、生徒たちや先生方そして私たち来賓の誰もが、笑顔になっていたことに気がつきました。生徒代表の終わりの言葉、「私たちの感謝のプレゼントが届いたでしょうか」との問いかけを反芻し、うなずきつつ得心して会場を後にしました。



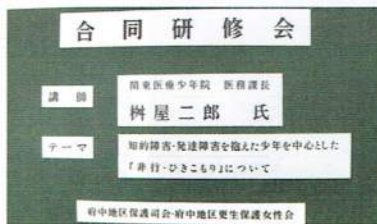
### 生活指導主任会と 保護司との懇談会

高野 佳子

十一月十四日「生活指導主任会と保護司との懇談会」を開催し、今回は関東医療少年院医務課長の榎屋二郎氏をお迎えし、「時代性と子どもの非行」～発達障害等を中心に」というテーマでご講演をいただいた。そして、保護司側、学校側と指導困難な事例を発表し、榎屋先生より助言をいただき有意義な時間を持つことができた。



講師 榎屋 二郎氏



ティネットからこぼれ落ちた子が少年院に集まっている。本人だけでなく、家族も含めたセーフティネットが築けるようなネットワーク作りを構築し、施設内支援から社会内支援の移行が上手くいくよう、一翼を担えればと思う。

発達障害を有する少年の対応には、適切な支援と働きかけを忍耐強く行うことが重要である。福祉・教育・薬物・心理療法等医療が連携しチームを作り、統一したビジョンを持ち支援する事が望ましい。本人の利益になる目標を設定する等示唆に富んだお話を伺った。



また、社会のセーフ

### 更女・保護司との 行動連携を模索して 合同研修会の企画

保護司会会長 保坂 昌代

日本の保護司制度は、世界に誇るべきものであるが、最近の社会情勢のめまぐるしい変化の影響等もあり、新任保護司の確保が年々困難となり、法務省をはじめとして関係諸機関においては、喫緊の課題となっており、

「保護司の安定的確保に関する基



支部長あいさつ

本「指針案」によりまずと保護司会が更生保護女性会、BBS会及び協力雇用主等と地域の更生保護関係者と同じ目的を持つ団体として一体的に活動できるように努め、より一層一体的な活動を展開するよう明記されております。

そのような状況の中、府中地区として何が出来るのか模索をしてまいりました。どこかで第一歩を踏み出す必要があります。

更女は以前から罪を犯した少年たちとの交流を継続しておりますが、保護司会としては二十五年度より初めて関東医療少年院との連携をとらせていただくことが出来ました。

二月五日は、関東医療少年院医務課長（精神科医）の榎屋二郎先生を講師として合同研修会を企画いたしました。



テーマは「知的障害・発達障害を抱えた少年を中心とした『非行・ひきこもり』について」でした。

難しい問題でありましたが、平易な言葉で説明して下さいました。発達障害の定義やその一次障害、二次障害等、また発達障害がひきこもりに至る背景、自閉症スペクトラム障害者と触法等、様々な非行に至る因子、示唆にとんだ講演内容でした。今後の更生保護活動に活かして犯罪者の心の支援や青少年の健全育成に携わって参りたいと思います。

### その他の参加行事

- 【十月】 八日 府中刑務所運動会
- 二十二日 関東医療少年院運動会
- 【十一月】 三日 府中刑務所文化祭
- 二十六日 東京都保護司会連合会創立六十周年記念顕彰式典
- 【二月】 十六日 関東医療少年院成人式
- 二十五日 紫翠苑公開シンポジウム



### 社会参加活動

地域活動部 田中 陽子

初めて社会参加活動に参加するにあたって社会参加活動の概要を改めて学習しました。社会参加活動は、保護観察対象者に地域社会に役立つ活動を行わせることにより、社会に役立つ達成感を得たり、感謝されることにより自己有用感を獲得してその改善意欲を高めたり、活動を通して社会のルールを守ることの大切さに気付いたり、コミュニケーションを図ることで社会性を向上させるなどの処遇効果を得ることでその再犯を防止し、改善更生を図ることを目的にしている活動です。

十二月七日、大國魂神社境内に朝八時半に保護司集合。少年たちが少し気恥ずかしそうな顔で参加してくれました。活動内容は大國魂神社の境内の落葉掃きと清掃です。府中のシンボルである大國魂神社を清めることは心と体を清めることに通じ、参加した全員が一生懸命落葉を集め、リヤカーに積んで作業をしました。少年の顔を見ると寒さの中、顔を赤くしながらも担当の保護司と談笑しな



がら清掃活動に励んでいました。その顔は役に立った満足感で清々しいものでした。清掃終了後の警察署からの差し入れの飲み物の美味しかったこと！その後大國魂神社の参集殿で、松本禰宜から「神社で働く神主と巫女の衣装について」のお話がありました。私たちが何気なく見ている神主や巫女の衣装は、位によって色が違い、神事や通常の仕事で着る衣装の違いなどがあり、歴史観も交えてのお話は興味深いものでした。朝からの半日の活動は体を使い、私にとっても良い経験になりました。私ごとですが大人になってから初めて引くりヤカーは面白く、調子づいた結果その後一週間肩・腕が痛く病院通いのオチがありました。

### 警察だより

府中警察署生活安全課 第一少年係長 泉 伸一

私たちは、少年時代に失敗や成功、善悪の区別、努力と我慢を経験して大人になりました。

大人は、子どもに対して躰する時に、自分が経験した少年時代の気持ちを忘れ、大人目線で話をして子どもが理解していないのに躰をした自分だけが納得をしている。

つまり、他人の目などを気にして「自分のための躰」をすることがあります。

子どもを教え導く私たち大人に必要なことは、未熟で不安定な子どもが目線に立って、どこが良くてどこが悪かったのかを分かりやすく教えることではないかと思えます。

躰とは、ただ怒鳴りながら正論を押し付けるのではなく、子どもの行動に興味を持ち、危うい行動があればその時に適切な助言をし、子どもが不安にならないように、子どもが頼ってきた時に直ぐに手助けできるように寄り添うというような「目配り」「心配り」「心配り」が大切ではないかと思えます。

### 更女の活動

書記 堺 美佐子

今年度、伊藤ゆきえ会長を筆頭に新体制で活動を始めました。

子育て支援として保健センターでの三歳児検診の手伝いや、消防署での救急救命講習の際の託児に協力しております。

各施設での行事へ参加の際には、時には母のように、時には祖母のような気持ちで交流を深めております。

また会員研修への参加や日帰り研修を実施して会員の知識の向上を図っております。

新たな取り組みとして、例年行っている講演会を、今年度は府中地区保護司会との合同研修として開催致しました。講師に関東医療少年院医務課長の榎屋二郎氏をお迎えし、「知的障害・発達障害を抱えた少年を中心とした『非行・ひきこもり』について」をテーマに学ぶ機会を得ることができました。

活動の詳細は広報紙「更女だより」をご覧ください。

更女としての心を常に持ち、代々引き継いできた活動とともに、変わりゆく時代にあった活動をこれからも続けていきたいと思えます。





○法務大臣表彰

伊藤 敏春

○全国保護司連盟会長表彰

谷合 隆一

○全国保護司連盟会長表彰

(内助功労者) 保坂 司郎

○関東地方更生保護委員会

委員長表彰 加藤 茂

備 邦彦

○関東地方保護司連盟会長表彰

小澤 宏

高野 律雄

高橋 淳二

筒井 孝敏

○東京保護観察所長表彰

赤塚 正坦

野口 良子

○東京保護司会連合会会長表彰

朝倉 俊夫

堺 美佐子

田中 節子

内藤 安雄

○保護司組織運営功労者感謝状

(東京保護観察所長)

中込健二郎

○府中地区保護司会永年在会

(十年) 加藤 茂

備 邦彦

「社会を明るくする運動」

東京保護観察所長感謝状

府中市立浅間中学校

更生保護女性会

○関東地方更生保護委員会

委員長感謝状 伊藤ゆきえ

○東京保護観察所長感謝状

井上 芳子

○東京更生保護女性連盟

会長表彰 水嶋 洋子

### 退任にあたり

中込健二郎



保護司として  
委嘱を受け、部  
会は広報部に入  
り多くの方の寄  
稿文を読ませていただきました。

退任にあたり原稿を依頼された  
時、月日の経つのが余りに速いのに  
驚きました。在任期間は短く十五年  
間です。この間に監事より理事にな  
りましたが、理事になった折、突然  
会長職を受ける事となりました。重  
責を全う出来るか不安でしたが、三  
人の副会長が力強い補佐をして下さ  
り、又、その上会員の皆様方のご協

力により貴重な経験をさせていた  
き、お陰様で二年間無事務める事が  
出来ました。

今後は益々、府中地区保護司会が  
隆盛となり、会員のご活躍をご祈念  
申し上げて退任のご挨拶とさせてい  
ただきます。

### 新任ご挨拶

小川 晴美



昨年九月に、保  
護司の任命をいた  
だきました。未だ

職務の内容すら理解不十分でありま  
すが、先輩諸氏のご指導をいただき  
ながら、誠心誠意努めたいと思いま  
す。人生途上で、図らずも触法となっ  
てしまった人たちが、新たな人生を  
再スタートさせ、私の人生の指針で  
もある「居て欲しくない人から、居  
て欲しい人、更には、居てもらわな  
くてはならない人」へと成長してく  
ればと思います。



古川 耕央

九月十七日付け  
で保護司を拝命い  
たしました古川耕央と申します。

出身も住まいも清水が丘で、高校

までは市内の公立学校に通いまし  
た。学生時代に打ち込んだハンド  
ボールで小中学生の指導に携わる中  
で、地域を挙げて青少年の健全育成  
をすることの重要性を痛感していた  
ところに保護司のお話をいただきま  
した。

微力ではございますが、精一杯努  
力をさせていただきますので、ご指  
導の程お願いいたします。



中込八重子

本庁にて二月一  
日付で委嘱状を頂  
きました。まだ二

日間の新任研修を受講しただけで日  
が浅く、また、先輩保護司の皆様方  
にご挨拶も出来ておりません。保護  
司の仕事についても何もわかりませ  
んで、これから先輩の皆様方にご  
指導を頂きながら一生懸命に保護司  
活動に邁進していきたいと思いま  
すので、ご指導の程よろしくお願い致  
します。

### ご逝去

市村 政信氏 享年七十二歳  
平成二十五年十月二十一日  
在職二十四年  
謹んでご冥福を

お祈り申し上げます



府中往来

ふるさと府中歴史再発見 (十三)

府中市ふるさと文化財課 庄司 明由

大國魂神社の例大祭「武蔵府中くらやみ祭」は、町がケヤキの若葉の緑に彩られる季節、四月三十日から五月六日にかけて行われる、府中最大の祭礼です。この祭りでは、山車、囃子、大太鼓、万灯など様々な神事や行事が、古式ゆかしくまた華やかに催されます。なかでも有名なのが、五月五日夜の神輿渡御です。六基の大太鼓の先触れと共に、一之宮から六之宮、御本社、御霊宮の八基の神輿が暗闇の中を神社から御旅所へと向かいます。

大國魂神社は、大國魂大神と武蔵国内の主要な六社の祭神、さらに御霊大神・国内諸神を合わせて祀っている神社です。大國魂神社という名称は明治四(一八七二)年からのもので、以前は六所宮・六所明神・六所神社などと呼ばれていました。六所といわれるのは、次の神社です。

一之宮 小野神社(東京都多摩市)  
二之宮 二宮神社(東京都あきる野市)  
三之宮 氷川神社(埼玉県さいたま市)  
四之宮 秩父神社(埼玉県秩父市)  
五之宮 金鑽神社(埼玉県神川町)  
六之宮 杉山神社(神奈川県横浜市)

総社や一之宮が成立したのは、平安時代後半の十一世紀と考えられています。国内の諸神を祀ったのが総社、序列化した国内有力神社の筆頭が一之宮と呼ばれました。武蔵国では、国府の中に祀られた六所宮が総社となったと考えられ、長らく「総社六所宮」とも称されてきました。国府に有力神社を合わせ祀るということは、国司がそれぞれの社を巡拝することを簡略化するためとも言われてきましたが、近年は、国府を中心とした支配関係を確認するための国府主催の公的・政治的な祭祀行事として捉え直す考え方が注目されています。

武蔵府中くらやみ祭は、古代武蔵国府の祭祀の伝統を受け継ぐ貴重な

祭と考えられています。また、巨大な太鼓が先払いを行う神輿渡御は、埼玉県や神奈川県にまで及ぶ広範囲に組織されている講によって支えられています。これらの点から、東京を代表する都市祭礼の一つとして東京都無形民俗文化財に指定されています。

多くの氏子や講中の人々によって守り伝えられてきた数々の行事は、時代とともに少しずつ姿を変えながらも、古代の武蔵国府の祭の姿を今に伝えていきます。くらやみ祭は、長い伝統と、これを守り続ける府中の人々の誇りに支えられ、これからも脈々と受け継がれていくことでしょ



(写真提供 府中観光協会)

問合せ  
府中市文化スポーツ部  
ふるさと文化財課  
(042-335-4473)

編集後記

昨年、「刑の一部執行猶予制度」の導入が決まり、初入者と薬物事犯者が対象となります。これに伴い保護観察事件数の増加、仮釈放者の保護観察期間が長期になることが予想されます。

保護司の負担を軽減する施策も必要ですが、巻頭で谷合副会長が掲げている、犯罪を増やさない『地域での犯罪予防活動に何ができるのか』を模索することこそが重要なのではないのでしょうか。

お忙しい中、寄稿いただきました、皆様に心より感謝申し上げます。

木村 講和

広報部

- 部長 加藤 茂 赤塚 正担
- 副部長 堺 美佐子 木村 講和
- 書記 大沢美保子 室 惇子
- 会計 田中 節子 伊藤 仁
- 部員 大住 猛雄 伊藤ゆきえ
- 小澤 宏 杉浦 渉

題字は高野市長の揮毫によるものです